

J I A 「建築家大会 2006 奈良」

新人賞公開審査 審査委員 11月9日

長谷川 逸子

竹原 義二

渡辺 真理

お昼前に奈良に着き、食事を済ませた後早速会場の新公会堂へと向かった。近鉄奈良駅から新公会堂までは登りのだらだら坂。時間にして15分ぐらいだったが、11月というのに天候が良く会場に着く頃にはうっすらと汗ばんだ。会場では新人賞の審査会が行われており、各出品者のプレゼンテーションがなされていた。昨年(岐阜)よりも広い会場での審査会はゆっくりと参加することが出来た。



審査会場風景

デザインフォーラム 11月9日

二人のプレゼンターによる発表

勝村一郎氏と関谷昌人氏が自身の設計による建築のプレゼンテーションが行われた。それに対して、コメンテーター5人がデザインに対する意見を述べるもの。勝村氏は、奈良県内に立つテナントの入るビルと、奈良市の餅飯殿町に工事中の店舗の発表を行った。

関谷氏は、奈良県と大阪市に立つ住宅を2棟発表した。

それぞれに対して、コメンテーターからは、厳しい意見が出され、それに対してプレゼンター2人は反論を行う。コメント中で印象に残ったのは、奈良と京都ではデザインに違いがあるということだ。京都は繊細で、奈良は骨太で力強いのだそうだ。鹿児島から見ると同じ地域性を持っていると思いがちだが、奈良の町屋を見たり寺社仏閣を見たりすると、京都とは違う奈良の地域性が感じられた。

客席に居る分には面白いものだが、ステージの上は針の筵のような気がした。



フォーラム会場風景



餅飯殿町現場

セミナー 環境建築賞受賞記念講演会 11月10日

第7回環境建築賞受賞者による作品の紹介。住宅部門と一般建築部門に分かれ、11作品の講演があった。

一般は高層ビルなど大規模な建築が多く、コンピューター等によるシミュレーションを行っていた。最近の研究でエネルギーの消費量は実際に近い形でシミュレートできていた。また、エネルギーの消費量だけでなく、中で働く人の環境やコミュニケーションのあり方もよく考慮されていた。住宅部門の「唐津山・積み木の家」は、ログハウスの工法に似ていて、積み木を組み上げるように作っていき、家具屋で製作し施工するというのが面白かった。



セミナー風景

レセプションパーティー 11月10日

レセプションパーティーは新公会堂の中庭で行われ、多くの会員と海外からも招待客が多数参加した。近くのテーブルに居た方と歓談し、建築の話から酒の話まであつという間の2時間半でした。今回も多数の方と知り合えました。

翌日(11日)は、エクスカーション。奈良市街からは少し離れている場所に車で移動した。まずは、室生寺。8年前の台風で近くの杉の木が倒れてきて、五重の塔が損壊。2年にわたり修復が行われた。うっそうと茂る木々の中にあり、イメージしていた大きさよりも小さく感じた。次に、長谷寺。参道に屋根がかかり、あいにくの雨も気にならずに本堂まで階段を上れた。最後に、今井町の町屋。約450年前に寺を中心として作られた城塞都市。昔の町並みを保存することの難しさはあるが、江戸時代の住宅を良く残していた。この地区に住んでいる人々が自慢にして、この町を愛しているからこそ残っていると感じた。

今回も十分楽しんだ全国大会でした。



仙田会長と



新公会堂